表紙のデザイン

カラーボールは 2022 年度に ATC が取り組んだ
SDGs のゴールを表しており
大きさは取り組みのゴールマークの数に
比例しています。

ASIA AND PACIFIC TRADE CENTER

アジア太平洋トレードセンター株式会社

大阪府大阪市住之江区南港北 2 丁目 1 番 10 号
TEL. 06-6615-5000

https://www.atc-co.com

OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025
©Expo 2025

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

GREEN PRINTING JFPI
P-K10002

VEGETABLE OIL INK

FSC
www.fsc.org
ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C016129

®環境省
エコアクション21
認証番号 0013348

2022
環境経営レポート

対象期間 2022 年4月1日～2023 年3月31日

発行日 2023 年8 月3 日

ASIA AND PACIFIC TRADE CENTER

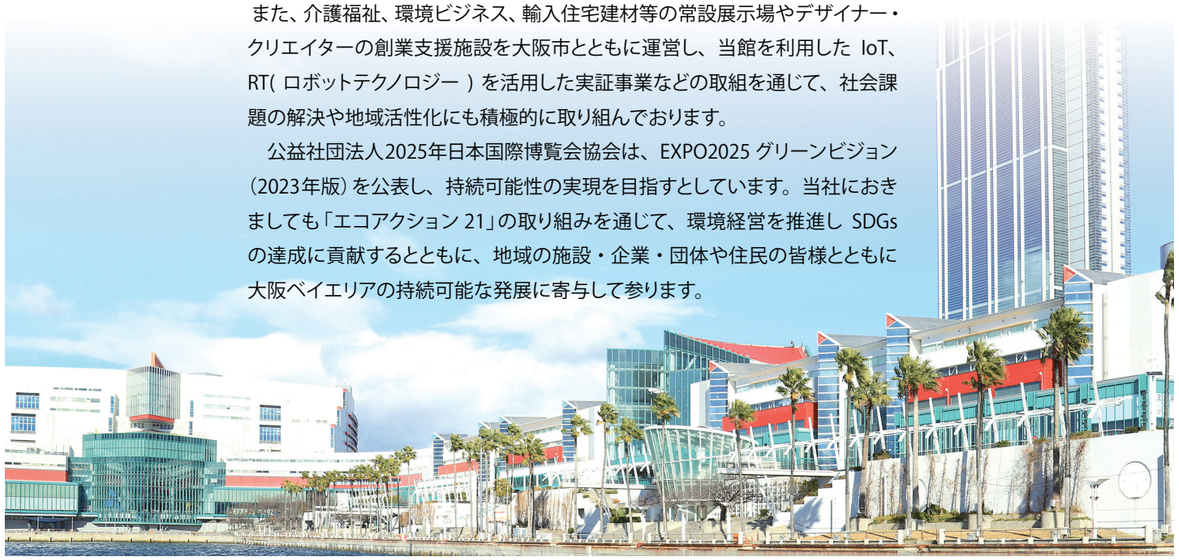
ごあいさつ

当社は、大阪ベイエリアの咲洲（さきしま）地区で、大型複合施設「ATC」を運営しております。

延べ床面積33万㎡に及ぶ建物には、オフィスやショールーム、レストラン、物販店舗にご入居いただき、「ATC ホール」では展示会、イベントなどの貸館や自主企画イベントを実施し、多数のお客様にお越しいただいております。

また、介護福祉、環境ビジネス、輸入住宅建材等の常設展示場やデザイナー・クリエイターの創業支援施設を大阪市とともに運営し、当館を利用した IoT、RT(ロボットテクノロジー) を活用した実証事業などの取組を通じて、社会課題の解決や地域活性化にも積極的に取り組んでおります。

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会は、EXPO2025 グリーンビジョン（2023年版）を公表し、持続可能性の実現を目指すとしています。当社におきましても「エコアクション 21」の取り組みを通じて、環境経営を推進し SDGs の達成に貢献するとともに、地域の施設・企業・団体や住民の皆様とともに大阪ベイエリアの持続可能な発展に寄与して参ります。



環境経営方針

環境経営理念

大阪ベイエリア咲洲地区で大型複合施設「ATC」を運営する当社は、不動産賃貸及び管理、催事・展示会の企画及び開催、各種の公共施設の運営を通じて、国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえた地球温暖化問題への取り組みを積極的に推進し、持続可能な地域の発展に寄与するため、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

環境保全への行動指針

ATC 行動基準（※）に則り、環境保全と規律維持に努めます。

事業活動を通じて、以下に継続的に取り組み、地球温暖化の緩和と持続可能な社会の構築に貢献します。

1. 二酸化炭素排出削減
2. 廃棄物排出削減
3. 水使用量削減
4. グリーン調達・グリーン購入の推進

企業、団体、自治体等と協働で環境や社会問題解決に率先して取り組み、産業を振興することでベイエリアを中心とした地域活性化につなげます。

来館者、取引先、株主、従業員などステークホルダーのみなさまと積極的にコミュニケーションをはかり社会の要請に応じた企業価値の向上に努めます。

ATC 行動基準（※）

1 法令等の遵守
ATC は、法令の遵守はもとより、あらゆる場面で人権を尊重し、社会的良識をもって行動します。

2 社会的に有用なサービスの提供
ATC は多様化する消費者等のニーズに応えるとともに、安全かつ有用なサービスの提供に努めます。

3 長期的視野にたった経営
ATC は、短期的な収益のみにとらわれず、常に長期的な視野に立った経営を行います。

4 公正な取引
ATC は、公正かつ自由な競争の確保が市場経済の基本ルールとの認識のもとに商活動を行い、また、政治・行政との健全かつ正常で透明な関係を維持します。

5 企業情報の開示
ATC は、株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションをはかり、積極的に企業情報を正確かつ公正に、適時開示します。

6 環境保全への配慮
ATC は、環境問題への配慮を常に忘れず、自主的、積極的に取り組みます。

7 社会貢献
ATCは、企業の利益と社会の動きを調和させ、『よき企業市民』としての役割を積極的に果たします。

8 働きやすい職場環境の実現
ATC は、従業員のゆとりと豊かさを実現し、働きやすい環境を確保するとともに、従業員の人格・個性を最大限に尊重し、自由闊達で創造性の発揮できる企業風土を実現します。

9 反社会的勢力及び団体との対決
ATC は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会勢力及び団体には断じて屈しません。

目次

環境経営方針
ごあいさつ 2
環境経営方針 3
ATC行動基準 3

中期経営計画からの展開
中期経営計画 2022-2024 4
サステナビリティ 4
地域連携 5

主な事業内容 &TOPICS
常設展示場・インキュベート施設 6
レストラン・ショップ 6
ウミエール広場 6
オフィス・ショールーム 7
イベントホール 7
テナントとつくる！新しい ATC 8
テナントと取り組む環境活動 10
ATCならではの新スポット 11

環境経営組織・実績&取組結果とその評価
組織の概要 12
環境経営組織図及び役割・責任・権限表 12
認証・登録の対象組織・活動 12
主な環境負荷の実績 13
環境経営目標及びその実績 13
環境経営計画の取組結果とその評価 14
緊急事態対応の試行・訓練 17
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無 17
落下防止対策 17

環境・社会活動
環境経営事務局 18
表彰 18
廃棄物分科会 18
CO_2分科会 19
SDGs 分科会 20
SDGs 取り組み一覧 26
代表者による全体の評価と見直し・指示 27
編集後記 27

中期経営計画からの展開

大阪・関西万博を持続可能な未来への成長ドライバーに

大阪・関西万博が開催される夢洲に隣接する咲洲エリアの地域性を最大限に活かし、2022 年度～2024年度の中期経営計画をもとに、ALL ATC で取り組んでいきます。

中期経営計画　2022 年度～2024 年度

重点課題 1

不動産賃貸事業者としての競争力強化

夢洲の開発進展に伴う需要の獲得
顧客ニーズに対応した空間・サービスの提供
複合施設としての強みの発揮

重点課題 2

安心安全で快適な空間づくり

災害対応力の強化
施設の経年対応
快適な空間づくり

重点課題 3

多様な集客機能の構築と強化

基礎的来館者数の増加
イベントによる来館者数の増加
広域からの来館者数の増加
公共展示場の活性化による来館者数の増加

重点課題 4

未来社会に向けた持続可能な経営

環境経営の推進（環境負荷の軽減）
地域活動の推進
公共展示場の活性化等による産業の振興
会社組織の活性化

新たな価値創造の活動

1 サステナビリティ SUSTAINABILITY

ATCでは、環境、人、社会との関わりを一層深め、未来の地球にとってより良いことをビジネスを通じて実現し、持続可能な発展を目指すため、課題解決に取り組んでいます。

E 環境

ATCでは、地球環境保全のため、「自主的に環境への関わりに気づき、目標を持ち、行動する」環境マネジメントシステム「エコアクション21」を構築・運用しています。

S 社会

ATCでは、社員にとって働きやすい会社を目指し、健康維持のための取り組みや、人材育成のための研修等を行っています。また、大阪咲洲地区の中核施設として地域社会の活性化にも取り組んでいます。

G ガバナンス

ATCでは、コンプライアンス推進規程ならびにリスク管理規程を制定し、コンプライアンス意識向上とリスクの低減に取り組んでいます。

地域と共に未来社会を描く

2 地域連携 RELATIONSHIP

咲洲から官民連携で大阪・関西万博を盛り上げる「咲洲プレ万博」

ATCも参画する咲洲プレ万博実行委員会は、2023年4月から1年間、大阪ベイエリア咲洲地域にて、官民連携によるプログラム「咲洲プレ万博」を開催します。ATCではプレ万博に先駆けて2022年にも様々なイベントを実施してきました。

■主催:咲洲プレ万博実行委員会(順不同)
ATC(アジア太平洋トレードセンター株式会社)　学校法人森ノ宮医療学園　ミズノ株式会社　西尾レントオール株式会社　日立造船株式会社　一般財団法人大阪国際経済振興センター(インテックス大阪)　大阪市経済戦略局　大阪市住之江区役所　公益財団法人大阪産業局(ソフト産業プラザTEQS)

大阪ベイエリア咲洲地域の企業・大学との官民連携による万博の機運醸成プログラム「咲洲プレ万博」を2023年度からスタートします。テーマは「みんなで考える未来社会」。SDGs学習やテクノロジー体験など様々な取り組みを通して、咲洲から“未来”を発信していきます。

ソフト産業プラザTEQS
手嶋 耕平

ATC OSAKA MIRAI EXPO　2023年4月13日～16日

大阪・関西万博 開催2年前!
先端技術で未来を感じる展示会

咲洲プレ万博のオープニングとして、ATC の館内外を会場に、空飛ぶクルマやメタバース、万博プロデューサの企画を実施。社会課題解決に向けた先端技術や取組みを集め、大阪・関西万博に向けて機運醸成と製品・サービスの開発を紹介・支援するイベントとなりました。

ATC TEAM EXPO DAY　2022年7月18日～19日

大阪・関西万博1000日前イベント!
万博へ向けてワクワクしよう!

ATC 海辺のステージで行われた「笑い」と「音楽」のステージを、バーチャル大阪（大阪府・大阪市が公認する都市連動型メタバース）にてライブ配信し、リアルとバーチャルを連動したイベントとしました。

大阪・関西万博の機運醸成をテーマとした、万博開催2年前、1000日前イベントをホール事業部、公共サービス事業部、総務部、オフィス事業部に所属する4名のメンバーで企画しました。オフィス入居者との連携、公共サービス事業部管轄場所でのセミナー、ホール事業部のノウハウを活かした運営等、部門を横断することで相乗効果を発揮し、多数のメディアに注目されるイベントとなりました。

公共サービス事業部
石川 晃教

主な事業内容

大型複合施設 ATC の運営・管理及び施設でのイベントや展示会の企画等を主な業務としています。大阪・咲洲地区の中核施設として、さまざまな方にご利用いただいています。

常設展示場・インキュベート施設

入居・出展企業 約370社

Showroom and Incubation

大阪市との連携事業

日本最大級の環境ビジネス常設展示場
おおさかATC グリーンエコプラザ
https://www.ecoplaza.gr.jp

クリエイター独立・創業支援施設
大阪デザイン振興プラザ
https://www.osaka-design.co.jp

豊かな高齢社会をめざす
介護と福祉の展示場
ATCエイジレスセンター
https://www.ageless.gr.jp

先端技術を活用した
ビジネスのサポート拠点
ソフト産業プラザ TEQS
https://teqs.jp

世界の住宅建材・部材・設備の
総合展示場
IHPC
https://www.atc-ihpc.com

プロジェクト創出 × 人材育成拠点
iRooBO オープンテクノロジーセンター
https://iroobo.jp

レストラン・ショップ

https://www.atc-co.com/restaurant

2023年4月オープンのロゴスカフェやシーサイドテラス（フードテラス）など、カフェ、居酒屋、ファストフードのほか、雑貨や靴、服飾関連の店舗も充実。

20店 ショップ
30店 カフェ レストラン
1,200台 駐車場

※店舗数は
2023 年 7 月 1 日現在

ウミエール広場

Umiere square

全長450mの海と空に開けたリラックスゾーン。
屋外イベントにも対応しています。

ベイサイドに広がるウミエール広場

海をバックにした海辺のステージ

オフィス・ショールーム

https://www.atc-building.com

5 坪程度のスモールオフィスから、ワンフロア 1500 坪の広さまで、様々なニーズにお応えできます。充実の付帯設備も魅力。

- 郵便局、銀行ATM、コンビニ、館内物流サービス等のテナントサポート
- 大型トラックヤード・荷捌場・大型エレベーター・倉庫・屋内駐車場を完備
- 関西物流網・交通網の一大拠点、大阪南港ベイエリアという立地
- 警備・設備ともに 24 時間スタッフが常駐

入居企業 100社以上

【PORT】入居企業専用の多目的型共有ラウンジ。イベント、商談、研修などにお使いいただいています。

他のオフィスビルにはない ATC ならではのサポート体制

港が望める開放感のあるオフィスや、ショールームのように使えるガラス張りのスペースもあります。

SOHO用のスモールオフィス

イベントホール

https://atchall.com

ATC ホール・コンベンションルーム・会議室

ワンフロアで総面積約 7,000 ㎡の多目的ホール、大小あわせて5つのホール、連動可能な12の会議室によりさまざまなイベントニーズにお応えいたします。

- Aホール (2,900m²) (分割時1,600m²、1,300m²)
- Bホール (1,130m²)
- Cホール〈ATC ミュージアム〉(1,000m²)
- Dホール (270m²)
- E ホール (250m²)

ATCホール 7,000㎡

A ホール

B ホール

この開放感はシーサイドならでは！

LOGOS BBQ

ロゴスカフェの屋外に隣接した広場にオープンしたロゴスBBQスタジアム。気持ちのいい風が吹き抜けるオーシャンビューのロケーションで、道具や食材を用意することなく、手ぶらで来てBBQを楽しめます。面倒な後片付けも不要ですので、楽しい余韻と共にお帰りいただけます。

シーサイド

ロゴスBBQスタジアム&カフェATC店

O' s棟南館2階のロゴスカフェと海側にひろがるBBQスタジアム。大阪市内にいながら、空が広く開放感を味わいながら、キャンプ気分でおくつろぎいただけます。

開放感があり光が気持ちよく差し込む吹き抜けの空間に、ロゴスのグッズが、配置されている「ロゴスカフェ」

環境配慮

日本初LNGフェリー就航、連絡通路もリニューアル

従来のフェリーよりも環境負荷を大幅に軽減する日本初のLNG燃料フェリー「さんふらわあ くれない」が2023年1月、大阪～別府航路に就航しました。それにあわせて、フェリーさんふらわあのチケットカウンター（ATC ITM棟2階）からの連絡通路を改修しました。

フェリーさんふらわあのチケットカウンター（ATC ITM棟2階）からの連絡通路

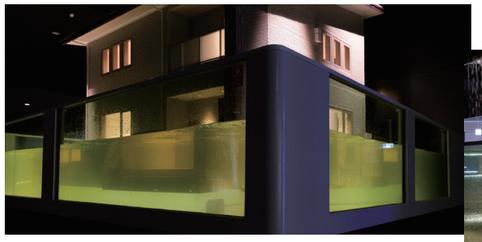
常設展としてモデルシップなどを展示するミュージアムコーナーを新設。合計6隻のモデルシップを展示。さんふらわあの歩みを示した大型年表も設置。

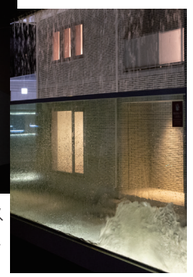
災害対策

ICHIJO-Lab Annex 夢の家 創造館

一条工務店様の住まいの快適ラボ「 ICHIJO -Lab OSAKA 」があるITM棟2階に「 ICHIJO-Lab Annex 夢の家 創造館」が、2023年6月にオープンしました。最新のモデルハウスがご覧になれる他、水害時に水に浮くことで人と家を守る「耐水害住宅」の実験モデルも展示されています。住まいの性能を「見る・触れる・感じる」ことができる施設です。

一条工務店様では初となる商業施設内に設置された全天候型の住宅展示場です。業界最高クラスの性能と優雅なデザインを兼ね備えた空間をご覧いただけます。





水害対策を施した「耐水害住宅」の1/4サイズスケールモデルの展示です。水槽内で水害を再現し、住宅が浮き上がる様子を見ることができます。

1 テナントと取り組む 環境活動

飲食店における食品残渣の削減

テナントと一体で飲食店舗でのフードロスの削減と啓発を推進

ディベロッパーとテナントが一体となって排出ごみの削減を推進するため、
飲食店舗での「生ごみ」の削減と啓発を行いました。

●取り組み開始：2022年4月
●取り組み内容：
・毎月の厨芥ごみ量報告の実施（飲食店舗が日別の報告書に記入）
・各店舗に生ごみ削減の具体的施策・取り組み内容の報告を依頼（2022年10月）
・店舗別基準値の設定（2022年12月までの集計結果より、店舗別の基準値を作成）
　基準値とは：売上1万円あたりに排出される生ごみ量を報告データ等から
　　相応の努力により達成可能な数値として設定
・四半期ごとに基準値をクリアした店舗を表彰

表彰 金久右衛門 南港ATC店

長谷川店長のコメント

当社は、ラーメン、パン、焼肉等、いろいろな業態を持ち、多角的に経営を行っています。
生ごみが出ないよう共通して意識していることは『食材は最後まで利用して無駄にしない。』です。例えば、野菜など普通は廃棄してしまう部位もラーメンのスープや他のメニューの出汁等に利用しています。また、パンも廃棄が出ないよう、パン粉にする等、他の店では廃棄してしまいそうな食材も加工して次に利用できるようにしています。そして、生ごみが出にくいようなメニューを考案し、無駄なく食材を利用できるよう心がけています。美味しい料理を提供することは飲食店としては当たり前のことですが、私たちはSDGsゴール12の「つくる責任・つかう責任」も意識した飲食店を展開しています。

家電リサイクルの啓発を行う（一社）家電製品協会の展示

おおさかグリーンエコプラザの展示ブースで家電リサイクルをわかりやすく紹介

（一社）家電製品協会の展示ブースでは、実物の液晶テレビや洗濯機、エアコン、室外機などの内部構造を確認しながら、リサイクルの工程や方法をわかりやすく学ぶことができます。

テナントとともにプラスチックごみの分別に着手

ATC&テナントで協力しながらプラスチックごみの分別を開始

ペット容器に続いてプラスチックの分別も、2023年4月よりテナントの協力を得ながら開始しています。資源の有効活用はもちろん、環境意識の高いビルを目指して、日々取り組んでいます。

2 ATCならではの 新スポット

海を臨むラウンジスペース「Do’ck」誕生

入居テナント従業員向けの波止場をモチーフにしたラウンジ

Do’ckは、ミーティングや食事など、オフィスワーカーがつながることができる波止場のような場所としてO’s棟に誕生しました。オフィスを離れて、アイデアをめぐらせたり、コミュニケーションを活性化させるスペースとして、入居社限定でご利用いただけます。

万博会場を一望エキスポット

エキスポット 万博まる見え スポット!! EXPO! Viewing

11階の従業員休憩室をエキスポットとしてリニューアル

グリーンエコプラザのあるITM棟11階のテナント従業員用の休憩室から、大阪・関西万博会場が一望できます。
関係者の方にもご覧いただけるようにリニューアルし「エキスポット」として公開しています。

建設中の大阪・関西万博会場

万博会場の紹介パネルとビデオ上映

大阪・関西万博の会場となる夢洲を一望

VOICE

公共サービス事業部　田中 真由美

エキスポットは、グリーンエコプラザの出展社や団体見学の方には、予約制でご覧いただけます。各業界から人気スポットとして注目していただいています。

さまざまな方に気持ちよくご利用いただけるトイレにリニューアル

ITM棟総合案内所前のトイレをリニューアルしました。多目的トイレには、車いす用の便座やオストメイトの設置など、多くの方に安心してお使いいただけるように配慮しています。

組織の概要

名称及び代表者名
アジア太平洋トレードセンター株式会社
代表取締役社長　木村 繁

所在地
本社　大阪府大阪市住之江区南港北
　　2丁目1番10号

環境経営責任者及び担当者
責任者　専務取締役　伊東 一哉
担当者　安田 夏実
連絡先　06-6615-5000

事業内容
不動産の賃貸及び管理、各種催物、
展示会の企画及び開催、駐車場運営 他

事業の規模
売上高 59.5 億円（2022 年度）
従業員 60 名
延べ床面積 336,000 ㎡

事業年度
4月1日～3月31日

認証・登録の対象組織・活動

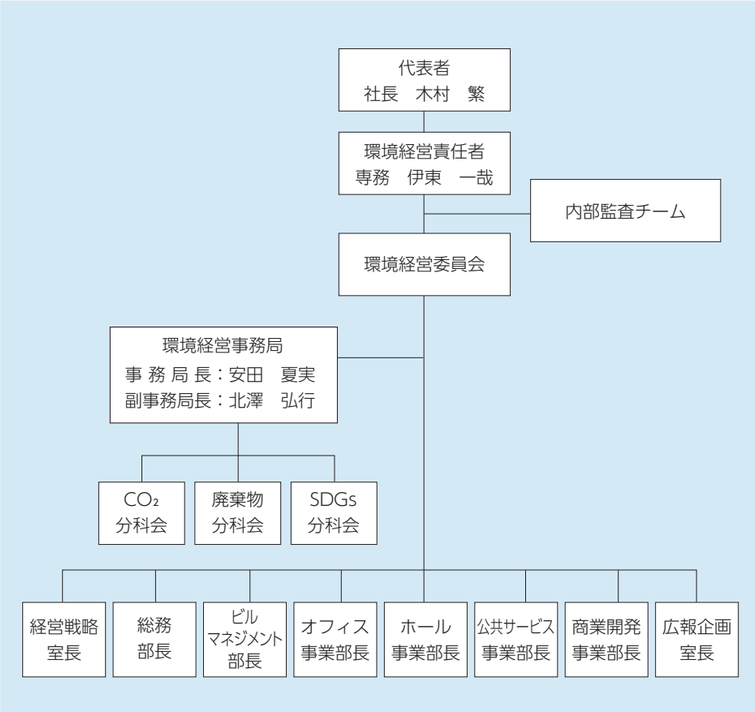
登録組織名
アジア太平洋トレードセンター株式会社

対象事業所
ATC ビル

対象外
なし

活動
不動産の賃貸及び管理、各種催物、
展示会の企画及び開催、駐車場運営 他

環境経営組織図及び役割・責任・権限表

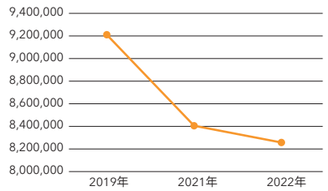


	役割・権限・責任
代表者（社長）	環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境経営責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認
環境経営責任者（専務）	環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
内部監査チーム	環境に関する内部監査の計画 環境に関する内部監査の実施・報告
環境経営委員会	環境経営方針・計画の審議 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
環境経営事務局 事 務 局 長：総務部長 副事務局長： 公共サービス事業部長	環境経営責任者の補佐、環境委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規など取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
全従業員	環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績（※）

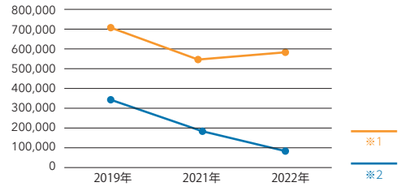
二酸化炭素総排出量（kg-CO_2）

2019 年	2021 年	2022 年
9,212,811	8,413,937	8,233,028



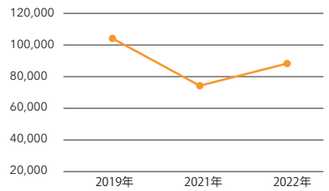
一般廃棄物排出量※1　産業廃棄物排出量※2（kg）

	2019 年	2021 年	2022 年
※1	702,420	539,760	591,160
※2	338,246	189,756	80,779



水使用量（㎥）

2019 年	2021 年	2022 年
103,933	75,334	87,547



環境経営目標及びその実績（※）

項目		年度 目標比		基準値（基準年）	2022 年（目標）	2022 年（実績）	目標比	達成状況	2023 年（目標）
電力による二酸化炭素削減	ATCホール除く全館 101%×		kg-CO_2	5,809,867	4,973,246	5,035,508	101%	×	4,915,147
			基準年度比	2019 年	85.6%	86.7%			84.6%
	売上高原単位		kWh/ 千円	3.09	2.64	2.89	—	×	2.611
	ATCホール 87%○		kg-CO_2	134,251	103,373	89,618	87%	○	102,031
			基準年度比	2019 年	77.0%	66.8%			76.0%
	稼働率原単位		kWh/ 日	1,636.33	1,259.97	1,292.51	—	×	1,243.61
熱供給による二酸化炭素削減	ATCホール除く全館 105%×		kg-CO_2	3,171,543	2,870,246	3,019,233	105%	×	2,838,531
			基準年度比	2019 年	90.5%	95.2%			89.5%
	売上高原単位		GJ/ 千円	0.0094	0.0085	0.0089	—	×	0.0084
	ATCホール 97%○		kg-CO_2	97,151	91,322	88,669	97%	○	90,350
			基準年度比	2019 年	94.0%	91.3%			93.0%
	稼働率原単位		GJ/ 日	6.61	6.21	6.56	—	×	6.14
一般廃棄物の削減	全館 113%×		kg	702,420	521,898	591,160	113%	×	514,874
			基準年度比	2019 年	74.3%	84.2%			73.3%
産業廃棄物の削減	ATCホール除く全館 50%○		kg	305,126	147,681	73,905	50%	○	144,630
			基準年度比	2019 年	48.4%	24.2%			47.4%
	ATCホール 27%○		kg	33,120	25,900	6,874	27%	○	25,569
			基準年度比	2019 年	78.2%	20.8%			77.2%
リサイクルの推進（2021 年度から追加）	116%○		リサイクル率	37.4%	40.2%	46.6%	116%	○	41.2%
			基準年度比	2019 年		125%			110.2%
コピー用紙の削減	115%×		枚	644,015	430,202	495,681	115%	×	423,762
			基準年度比	2019 年	66.8%	77.0%			65.8%
水道水の削減	96%○		㎥	103,933	91,045	87,547	96%	○	90,006
			基準年度比	2019 年	87.6%	84.2%			86.6%
グリーン調達・グリーン購入の推進	78%×		グリーン購入比率	12.9%	45.0%	34.9%	78%	×	46.0%
			基準年度比	2019 年		271%			356.6%

※二酸化炭素排出係数 0.318kg-CO_2/kWh（関西電力の 2019 年度調整後の係数）　※地域冷暖房の CO_2排出係数　0.057t-CO_2/GJ
※二酸化炭素排出係数については当社の活動内容での実績を見るため固定値にしています。
※2021 年度は再生可能エネルギー 3%、2022 年度は 8%

環境経営計画の取組結果とその評価

表組のマーク：◎よくできた ○まあまあできた
△あまりできなかった ×全くできなかった

CO_2

電力による二酸化炭素削減

目標比
全館（ATCホール除く） 101%×

再生可能エネルギーを8%導入

「再生可能エネルギー」の導入率を3%から8%にアップさせたことで、目標値も前年度の94.9%から85.6%に上方修正しました。目標達成にむけて共用部照明点灯箇所、大型設備の運転時間の徹底的な見直し、数年に渡るファンコイルユニットの更新、テナント区画のLED化など、様々な省エネ対策を実施しましたが、外気温の影響等で目標には届きませんでした。

数値目標と実績	達成状況
目標4,973,246 kg-CO_2 ▶ 実績5,035,508 kg-CO_2	×

おもな取り組み計画	達成状況
こまめな電源のON・OFF	○
空調の適正温度設定を奨励	○
ファンコイルユニット更新工事	◎
電力使用量のうち再生可能エネルギーを8%採用	◎
新規入居区画は天井照明をLED化	○
オフィステナント区画へのLED化工事	○

目標比
ATCホール 87%○

来館者制限等が影響し達成

ATCホール稼働率がコロナ前の基準年度に近い水準になりましたが、来館者制限が継続していることや、電力消費量が多いイベントがなかったこと等もあり、目標達成となりました。

数値目標と実績	達成状況
目標103,373 kg-CO_2 ▶ 実績89,618 kg-CO_2	○

おもな取り組み計画	達成状況
自主催事によるグリーン電力の一部導入	○

熱供給による二酸化炭素削減

目標比
全館（ATCホール除く） 105%×

設備更新するも夏冬の厳しい環境が影響

5年に渡るファンコイルユニット更新工事により空調効率の向上を図りましたが、夏場の気温上昇と冬場の気温低下の影響などにより目標未達成となりました。

数値目標と実績	達成状況
目標2,870,246 kg-CO_2 ▶ 実績3,019,233 kg-CO_2	×

おもな取り組み計画	達成状況
空調の適正温度設定	○
適切な空調運転（デマンドコントロール）	◎
啓発ステッカーの配布、テナントへの協力要請	○

2023年度予定

2023年度はオフィステナントの空調料金が定額制になったことにより熱使用量の増加が懸念されるため、省エネ啓発に努めます。

目標比
ATCホール 97%○

利用者に空調適正温度の推奨や節電要請を推進

夏場の気温上昇や冬場の気温低下の影響がありましたが、空調の使用が多いイベントがなかったこと、さらに利用者への空調適正温度の呼びかけや協力会社への節電要請により空調使用を抑制できました。

数値目標と実績	達成状況
目標91,322 kg-CO_2 ▶ 実績88,669 kg-CO_2	○

おもな取り組み計画	達成状況
利用者へ空調の適正温度の呼びかけ	○
協力会社への節電の要請	○

2022年度再生可能エネルギー比率3%→8%に

省電力化が進んできたため、契約電力の見直しを実施しました。これにあわせ2022年度契約より再エネ比率を3%から8%に引き上げました。

廃棄物

一般廃棄物の削減

目標比
全館 113%×

来場者増加により廃棄物量が増加

来場者が回復してきたこと等により、廃棄物の量が増えたため、目標未達成となりました。商業テナント初の試みとして、各店舗に食品残渣量測定・報告を要請し、削減率に応じて表彰する制度を作り、フードロス削減の意識づけを進めました。

数値目標と実績	達成状況
目標521,898 kg ▶ 実績591,160 kg	×

おもな取り組み計画	達成状況
細かな分別の徹底	○
使い捨て商品の購入を削減	○
分別の徹底による再資源化の推進（社内・テナントへの周知）	○
毎月テナントに生ごみ計量記録の提出を要請	◎
対象店に使い捨てプラスチック品名と削減内容の提出を要請	◎

ごみの分別方法を社内およびテナント様に周知

ごみの分別方法を社内およびテナント様にわかりやすく周知し、廃棄物減量と再資源化を啓発しています。

ATCホールで廃棄物の分別推進

主催者の協力を得て、ダンボール、ビン、缶等を分別しリサイクルにまわすことで産業廃棄物が減量化されています。

マニフェストの電子化

2022年度より電子マニフェストの導入により事務処理の効率化を図るとともにデータの透明性を確保。法令順守を徹底することに繋がっています。

産業廃棄物の削減

目標比
全館（ATCホール除く） 50%○

分別回収により目標達成

2021年度から実施したテナントの産業廃棄物の各自適正処分が浸透し、大幅減少となり目標達成となりました。また、分別を推進しリサイクル率UPに努めています。

数値目標と実績	達成状況
目標147,681 kg ▶ 実績73,905 kg	○

おもな取り組み計画	達成状況
テナントの産廃は各自で適正処分を要請	○
電子マニフェストの導入により法令順守の徹底	○

目標比
ATCホール 27%○

イベントでの廃棄物削減の他、分別回収を徹底

ATCホールの稼働率は基準年度に近い水準まで回復しましたが、イベントから発生する廃棄物量の削減や、ダンボール、ペットボトルなどを分別することで、産業廃棄物の削減とリサイクル率UPに寄与しました。

数値目標と実績	達成状況
目標25,900 kg ▶ 実績6,874 kg	○

おもな取り組み計画	達成状況
計測による数値の見える化	○

産業廃棄物の分別を推進

当館に入居されている「コーユーレンティア株式会社」様に、不要物品や産業廃棄物の処理を委託しています。ステンレスや金属などは有価物として買い取ってもらい再資源化をすすめ、リユースできるものは再利用を進めてもらうなど、適正な処理に加え、処理費も削減できています。

環境経営計画の取組結果とその評価

表組のマーク：◎よくできた ○まあまあできた
△あまりできなかった ×全くできなかった

廃棄物

リサイクルの推進（リサイクル率）

全館　目標比 116%○

分別推進で催事の産業廃棄物を一部リサイクル回収に

蛍光灯のリサイクル業者と新しく取引するなど、リサイクル率アップに努めました。また、ATCホールのイベントで発生した産業廃棄物の分別回収を進めることで、リサイクル率がアップしました。

数値目標と実績	達成状況
目標40.2% ▶ 実績46.6%	○

おもな取り組み計画	達成状況
催事の段ボール処理を産廃からリサイクルへの変更を推進	○

水道水

水道水の削減

全館　目標比 96%○

トイレ更新工事で節水効果がアップ

経済活動が活発化する中で来館者は回復傾向にありましたが、トイレの更新工事を実施したこと等により節水効果がアップし目標達成となりました。

数値目標と実績	達成状況
目標91,045m³ ▶ 実績87,547m³	○

廃棄物

コピー用紙の削減

ATC事務所　目標比 115%×

ペーパーレス化を推進するも、来館者増に伴い使用量増加

稟議書の電子化、会議のペーパレス化、社員へのタブレット端末の普及によりペーパレス化が進みました。一方で経済活動が活発になる中、コピー用紙使用量は増加し目標未達となりました。

数値目標と実績	達成状況
目標430,202枚 ▶ 実績495,681枚	×

おもな取り組み計画	達成状況
コピーの両面、集約などの機能の活用	○
会議のペーパレス化への取組	○
業務の効率化、電子化への取組	○

グリーン調達・購入

グリーン調達・グリーン購入の推進

ATC事務所　目標比 78%×

グリーン購入対象外商品の発注により未達に

できるだけグリーン購入対象商品を選定しましたが、各部からの購入依頼商品にグリーン購入対象商品がなかったため、目標未達になりました。

数値目標と実績	達成状況
目標45.0% ▶ 実績34.9%	×

おもな取り組み計画	達成状況
事務用品はできるだけグリーン購入法適合商品を選択	△
一時的な利用はレンタルを検討する	○
FCU更新工事の実施	◎

ペットボトルキャップを分別・リサイクルし寄付

ATC館内で集められたペットボトルキャップをリサイクル募金推進連絡会に寄付しています。

<リサイクル募金推進連絡会とは>
リサイクルできる資源（てんぷら油、ペットボトルキャップ等）を分別し再資源化して募金にし、事件事故に巻き込まれた子どもたち等を支援する活動。

緊急事態対応の試行・訓練

南海トラフ地震を想定し全館で訓練を実施

全国で地震が多発し、南海トラフ巨大地震の発生確率も高まってきていると言われています。ATCでは、南海トラフ地震を想定した訓練を関係機関と協力して定期的に実施しています。状況把握から通報、避難誘導、負傷者の搬送など、緊急事態を想定して今年度は2回訓練を行いました。

緊急地震速報システム導入

2022年11月、いち早く地震情報を入手し地震対応の初動が遅れないようにするため、ITM棟1階の防災センターに緊急地震速報システムを設置しました。地震到達までの時間、館内4か所の予測震度、階層毎の長周期振動階級を計算して表示することができます。身構える準備をすることで、地震時の損害を少しでも軽減し、災害に強い安心安全なビルを目指して取り組んでいます。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物
大阪市廃棄物の減量推進及び適正処理並びに生活環境の清潔保持に関する条例	一般廃棄物、産業廃棄物
ビル管法	ATCビル（特定建築物）

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
省エネ法	エネルギー使用量原油換算1500KL/年以上（※1）
地球温暖化対策推進法	エネルギー使用量原油換算1500KL/年以上（※2）
グリーン購入法	購入品・調達品、購入先・外注先
消防法（危険物）	危険物の保管
顧客要求事項	品質管理

※1：当社は省エネ法上の「特定事業者」です。
※2：当社は地球温暖化対策推進法上の「特定事業所」です。

社員・スタッフに「eco検定」取得を推奨

今年度1名合格 合計8名に！

ビジネスと社会課題の解決の両立を目指すため、多くの企業で、東京商工会議所主催の環境に関する検定試験「eco検定」が導入されています。おおさかATCグリーンエコプラザでは、受験対策セミナーも実施しており、ATC社員にも取得を推奨しています。

落下防止対策

アトリウムにおける落下防止対策

ビルの安全を考慮して9月にITM棟西側3～12階の白い手すり下全体（約1km）に、また3月には追加でITM棟2階・O's棟3階に、落下防止対策を実施しました。

環境・社会活動について

ATCでは事業活動を通して環境や社会視点で情報発信しています。エコアクション21の活動を通して、
環境経営方針に基づく取り組みをテーマごとに社内活動や対外活動を紹介します。

エコアクション21関連社内会議

環境経営委員会

2022年4月28日・8月10日・10月13日・
12月8日・2月9日 …… 数値や取組みの報告を行う

環境経営事務局会議

毎月第3金曜日 ……3つの分科会に関連する各部の取組みについて数値や取組みの報告と意見交換を行う

表彰

「令和3年度おおさか気候変動対策賞」特別賞

大阪府温暖化の防止等に関する条例に基づき届出された実績報告書で、計画期間（2018～2020年度）の最終年度（2020年度）の評価結果が最良である事業者として表彰されました。

ごみ減量優良建築物

大阪市環境局より「優良なごみ減量・適正処理を実施している」大規模建築物であると認定されました。

環境経営事務局

（各取り組みに主なSDGs番号を紐づけています）

1 SDGsラリーの実施

コプラザの出展者でもある大栄環境株式会社様の取組み「2500人の環境ラリー」をベースにした、社員が「SDGsを自分ごとに」するための企画、「SDGs ラリー」を実施しました。
「節水する」「レジ袋を断る」など気軽に取り組める環境活動をポイント化しSDGsの各ゴールと関連付けています。

廃棄物分科会

（各取り組みに主なSDGs番号を紐づけています）

廃棄物 1 プラスチック資源循環促進法への対応

プラスチック資源循環促進法のはじまりに対応し、飲食店にヒアリングと推進を促しました。すべての店舗で声掛けまたは代替品の採用等を行っていることを確認しました。

廃棄物 2 会議のペーパレス化

予算進捗会議に一部ペーパレスを導入。課題管理についてもペーパレス化しました。

廃棄物 3 廃蛍光灯管・廃水銀ランプの再資源化推進

廃蛍光灯管・廃水銀ランプの再資源化を行っている「（株）ジェイ・エム・アール」と新規契約し、館内で多量に排出される蛍光灯管・水銀ランプのリサイクルに取り組み始めました。

廃棄物 4 2023年度より廃プラスチックごみの分別強化

2022年8月、大阪市環境局の立ち入り検査で、一般廃棄物として処理していた弁当殻、カップ麺容器、クリアファイル、ボールペン等について、今後は産業廃棄物として処理するよう指導を受けました。2023年4月の分別開始にむけ、ごみステーションの整備とテナントへの分別案内、リサイクル可能な産廃処理業者の選定を行いました。

CO_2分科会

（各取り組みに主なSDGs番号を紐づけています）

CO2 1 オフィス専有部LED化工事実施

19,489台を更新することで消費電力3,371,590KWh/年の削減を見込んでいます。（10時間×365日）

VOICE

ビルマネジメント部　村上 香苗

燃料調整費の上昇を受け、夏前に全館の照明点灯箇所やエスカレーター運転時間等の見直しを行い、消費電力量を大幅に削減できました。その後さらに、共用部の省エネだけでは吸収できないほど燃料調整費が急騰したため、10月以降のテナント様への電気代請求を、単価に燃料調整費を反映させる毎月変動制へと改定しました。テナント様のご負担増をできる限り抑えられるよう、専有部照明のLED化も予定より前倒しで進めております。

CO2 2 FCU更新工事第5期完了

5カ年計画の最終年度、第5期工事。工事困難箇所等ありましたが、3月23日に完了しました。

CO2 3 「今までのあたりまえをみなおす」取り組みを推進

共用部照明の点灯箇所、大型設備の運転時間の見直しによる節電。
7月からは一部エスカレータ、ハロゲンライトの使用中止を行いました。

【年間削減量（試算）】
・消費電力量：440,989kWh/年
・CO_2排出量：154, 787kg/年

テオ・ヤンセン展

ATC夏の大規模展覧会で“初”の「グリーン電力証書」システムを導入

2022年、ATCGalleryにて開催された「テオ・ヤンセン展」では、カーボンオフセットを目指し、展覧会で使用するエネルギーの一部に「グリーン電力証書」の購入を行いました。「エネルギーの地産地消」という新しい地域貢献のカタチを実現するために、大阪府内の再生可能エネルギーの活用を、他社のイベントにも広げるように努めています。

展覧会で“日本初”「SDGs for MICE評価制度」を導入

「テオ・ヤンセン展」では、グリーン電力証書の購入に加え、MICE開催におけるSDGsの取組を行うべく、「SDGs for MICE評価制度」を日本で初めて導入し、開催しました。

VOICE

評価委員会の総括と結果

この評価制度は、いろいろと手探りの状態から始まったと思われますが、テオ・ヤンセン展においては、118の審査チェック項目の内61項目について申請されており、その取り組みの熱意に敬意を表します。また、その審査に当たっては、計画書や報告書を丹念に読みこんでいることや現場での直接確認など記載がわかりやすく、公正な審査結果であることが客観的に理解できます。申請項目以外にも注目して、当然あるべきと判断された評価項目を審査されていることは、審査員のこの制度に対する真摯な対応と感じられます。さらに、テオ・ヤンセン展における69頁におよぶその実施報告書は、相当、中身が濃く、質の高いものに仕上がっています。これはテオ・ヤンセン展主催者の「SDGs」への意識の高さと「SDGs for MICE評価制度」への期待が相俟ったものと思われます。申請者におかれましては、この審査報告書に留まることなく、さらなるSDGsの規範を世界に示す如くお進みいただきたいと思います。

VOICE

今回、初の取り組みとして「SDGs for MICE評価制度」を導入しました。各ステークホルダーとの打ち合わせによる変更点の洗い出しや、資料の作成など普段通り＋αの行動を追加し、各関係者が意識をもって取り組めました。この評価制度がより多くの方々に広がれば、多方面からの環境負荷が抑えられると思います。過日、本取り組みにおいては、大阪観光局様主催のビジネスアライアンスでも発信をさせていただく機会をいただきました。これからも、このような取り組みを進めていき一歩先のMICEを提案できるように努めていきたいです。

ホール事業部
前川 真毅

SDGs・万博分科会

（各取り組みに主なSDGs番号を紐づけています）

SDGs 1 第10回咲洲こどもEXPO2022 ～ThinkSDGs笑顔がつながる、未来をつくる～

2013年から行政・企業・学校が一体となり、未来を担うこどもたちの想像力を育み、こどものチャレンジを応援する地域活性化プロジェクトとして「咲洲こどもEXPO」を実施しています。10回目を迎える今年は、各会場をめぐるスタンプラリーに、「ATCおおさかグリーンエコプラザ」出展社の円谷プロが取り組む『かいじゅうステップSDGs大作戦』を起用しました。

プログラム数：前年の47件（リアル45件、オンライン2件）から11件増え、リアル開催が57件、オンライン開催が1件。

SDGs 2 万博の桜2025

「万博の桜2025」は、2025年4月、大阪・関西万博開催時に、世界各国からの来場者を桜で迎えることを願って、大阪府内を中心に2025本の桜を植樹するプロジェクトです。当社も本プロジェクトの趣旨に賛同し、2022年度に寄付をいたしました。

SDGs 3 ベイエリアMICE会議

大阪ベイエリアMICEはSDGs宣言後の取り組みについて定期的に検討しています。

SDGs 4 全国健康保険協会「健康宣言」事業所として認定

全国健康保険協会「健康宣言」事業所として認定されました。健康診断全社員受診等、社員が心身ともに元気に働ける会社を目指します。

・法令遵守・社員の健診受診率100%
・健康サポートの実施率100%　など

SDGs 5 咲洲塾

社長と日頃話す機会が少ない若手・中堅社員が社長とディスカッションする場を設けることで、相互に気づきを得ることを目的に開催。
（2022年10月6日、10月18日　2023年1月9日）
・4～5人を1グループとし計3回実施
・予め決められたテーマに対し、A4（1枚）のレポートを事前に提出
・第一部　発表とディスカッション　第二部　懇親会

SDGs 6 バランスボールの設置

若手社員からの要望を受け腰痛対策等のため、商談コーナー等にバランスボールを設置しました。

VOICE

ホール事業部　辻 尚将

年齢的にも役職的にも、普段社長と直接お話する機会がなかなかないので、自分の意見を聞いていただいたり、社会人として成長するための考え方を学べたりとても有意義な機会でした。第二部の懇親会も楽しい時間でした。私はATCに転職して間もなくでしたので、他部署の人たちの考えを聞けたのもよかったです。社長の「提案というカードをいつきるかが大切だ」という言葉が心に残りました。また参加したいです！

SDGs・万博分科会

（各取り組みに主なSDGs番号を紐づけています）

SDGs 7 サキシマmeets!

咲洲で働く団体・企業がフラットに情報発信・共有・交流できる場として隔月で開催しています。

第6回　参加者みんなが主役!大プレゼン大会/ビンゴ大会
第7回　咲洲・夢洲のまちづくり～大阪都市計画局の役割
第8回　サキシマmeets勝手万博
第9回　サキシマmeets大運動会
第10回　サキシマに新設されたイノベーションセンターとミズノが描く未来
第11回　今年の抱負発表!大プレゼン大会

SDGs 8 サキシマmeets! おそうじ委員会

咲洲のごみについてクリエイティブな発想でたのしく行動する咲洲で働くひとたちの地域ボランティアです。毎月1回、昼休みや夕方に実施しています。

SDGs 9 第1回サキシマmeets 大運動会

「サキシマmeets!大運動会」では、14チーム100名以上の方々が森ノ宮医療大学の体育館に集まり、楽しく一緒に汗を流しました。企業の若手で構成されたチームや小学生のチーム、車いすに乗られている方のチームなど様々な背景を持った人々が競技を通して交流を深めることができました。

SDGs・万博分科会

（各取り組みに主なSDGs番号を紐づけています）

大阪・咲洲から万博につなげる100プロジェクト

2025年に開催される大阪・関西万博を契機とし、様々な企業団体がATCと協業で100件のプロジェクトを創出する「咲洲から万博に繋げる100プロジェクト」。ATCは2021年に（公社）2025年日本国際博覧会協会が主催する「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナーに登録しました。
2022年度も社会課題の解決を目指し、テクノロジー関連を中心に様々な企業団体がプロジェクトに取り組みを行いました。

SDGs 10 Baggageport 大型荷物一時預かり 株式会社シブタニ

「荷物を預ける場所=バゲッジポートをもっと世に広めたい!」～移動中の小さなストレスをハッピーに変える～

建築金物総合メーカーの株式会社シブタニが開発・販売する、大型荷物一時保管装置「Baggageport」。駅や空港、商業施設などでの移動中に、一時的に荷物を預けられる保管装置を提案することで、移動ストレスを軽減する社会を目指します。

SDGs 11 「技術開発の公開実験の場」中之島ロボットチャレンジ

研究者と地域が協力して行う、先端技術への挑戦と公開実験の場

中之島ロボットチャレンジ実行委員会が運営する、人々の往来する実環境において、自律移動ロボットが問題無く行動できる「技術開発の公開実験」を大学や企業向けに提供する大会です。さまざまな研究開発機関が参加する技術交流の場を設けることで、ロボット開発技術のレベル向上を目的としています。

IoT・ロボットビジネス実証実験支援

IoT・ロボットテクノロジーを活用した新たな製品・サービスの開発・改良に必要な実証実験フィールドとして、ATCをご利用していただいています。「新しいサービスが生まれ続ける街」「IoT・RT関連ビジネスの創出拠点」としてのブランディングを行っていく取り組みです。

警備員ロボットによる
行列整理・誘導案内を実施

BEAM電動キックボード試乗&
安全講習会

ソーラービーコン内蔵点字ブロック、音声やスマートフォンでの案内検証

空の安全を守るために、風の流れを見える化する実証実験

SDGs・万博分科会

（各取り組みに主なSDGs番号を紐づけています）

＼若手・中堅社員が考える／

「会社の未来を自分ごと化」プロジェクト
2030 ATCのありたい姿

2025年の大阪・関西万博の開催を経て、SDGsの達成年とされる2030年にATCがどのようになっていたいかを、2030年にATCの企業運営の中心となっている世代の若手・中堅社員で議論するため、合計5回のワークショップを開催しました。

2022-2024年度中期経営計画（重点課題）

1 不動産賃貸事業者としての競争力強化
2 安心安全で快適な空間づくり
3 多様な集客機能の構築と強化
4 未来社会に向けた持続可能な経営

次代を担う若手・中堅社員が「会社の未来を自分ごと化」するプロジェクト

未来社会に向けた持続可能な経営 ＋ 若手・中堅社員 ＋ 現状分析 SWOT/3C ＋ SDGs ＋ 外部 ファシリテーター オブザーバー

第１回

第２回

第３回

第４回

第５回

若手・中堅社員が考える
2030 ATCのありたい姿

SLOGAN

BEYOND

期待を超え、未来をつかむ

VISION

ONLY ATC	記憶に残る感動体験ができる場所として広く認知されている
Self-Starter	全員が経営視点を持って自発的に行動できている
Create the Value !	新しい価値創造に果敢に取り組んでいる
咲洲イチバン	地域の中核施設として率先して連携を行い、持続可能な地域の発展を推進している

SDGs・万博分科会

（各取り組みに主なSDGs番号を紐づけています）

大阪デザイン振興プラザ

〈デザイナー・クリエイターのための独立・創業支援施設〉

出展者数 41社

面積4,500㎡セミナー件数45件（2023年3月末）

SDGs 12 クリエイティブTシャツ展2022の開催

様々なジャンルのクリエイターやデザイン系の学生の作品をTシャツとして展示・販売する「クリエイティブTシャツ展2022」を開催しました。Tシャツについてはその場で販売を行うとともに、会場ではこども向けのTシャツ作りワークショップも開催しました。

SDGs 13 ODPこどもの森とイラストマルシェ

自分で作品やオリジナルグッズを作って自己発信をするクリエイターが数多く参加。ものづくりやアート体験などのワークショップや、イラストレーターが参加者だけのSNSアイコン・似顔絵・その他イラストなどを描く「ODPこどもの森とイラストマルシェ」を開催しました。

ATC輸入住宅促進センター（IHPC）

<世界の住宅建材・部材・設備の総合展示場>

出展者数 115社

面積3,200㎡セミナー件数12件（2023年3月末）

SDGs 14 WOOD MEETS 夏休み木材にぎわい展開催

WOOD MEETS出展4県（高知・島根・徳島・和歌山）の地域産材を活かした住宅マテリアルや建材、木製品を一般消費者向けに展示する合同イベントを、ATCビルITM棟2階のセントラルアトリウムで開催しました。

SDGs 15 神々の国しまねの木 展示・商談会2022開催

ATC輸入住宅促進センター（IHPC）や大阪市天王寺区にある「あべのハルカス」を会場に、島根県の7社の企業による木材・木製品を一堂に展示。商談会および島根の木の魅力と木造建築について、建築家の三分一 博志氏による講演会をATC輸入住宅促進センター（IHPC）が受託して開催しました。

SDGs・万博分科会

（各取り組みに主なSDGs番号を紐づけています）

おおさかATCグリーンエコプラザ

〈日本最大級の環境ビジネス常設展示場〉

出展者数 110社

面積4,500㎡セミナー件数47件（2023年3月末）

SDGs 16 展示場を活かした情報発信充実とリニューアル

家電リサイクルの取り組みを紹介する(一財)家電製品協会様をはじめ11社の新規出展企業様を受け入れるため8件のリゾーニングの実施や、既存の出展企業様も合計10社が展示をリニューアルされるなど、展示場を活かした情報発信が一層充実しました。

SDGs 17 セミナー・イベント

会場とオンラインの併催を中心に、万博やSDGs関連のセミナー・イベントを多数主催・共催・協力して開催しました。特に7月19日の「ATC TEAM EXPO DAYセミナー」は合計117名、11月11日に開催した「建築分野におけるカーボンニュートラル 脱炭素社会の実現を目指して」は、会場・オンライン合計748名の方にご参加いただけるなど、エコプラザの代表的なセミナー・イベントとなりました。

ATCエイジレスセンター

〈豊かな高齢社会をめざす介護と福祉の展示場〉

入所企業数 87社

面積5,000㎡セミナー件数36件（2023年3月末）

SDGs 18 介護ロボット プラットフォーム事業の充実

厚生労働省の「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」の2年目として、介護ロボットの開発・普及を目的とした「介護ロボット導入支援の実施（伴走支援）」を行いました。また、介護ロボットの展示も充実し、団体見学等で多数ご覧いただきました。

SDGs 19 「関西キッズ機器展」「エイジレスフェスタ‘23」開催

コロナで中止されていたエイジレスセンターの代表的な催事について、催事内容も一部リニューアルの上、開催いたしました。各回ともお客様に多数ご参加いただけました。

SDGs 取り組み一覧

2022年度の各分科会の取り組みを主なSDGsのゴールに紐づけています。それらを一覧にすると、取り組めているゴール、着手できていないところがわかります。次年度以降、引き続き重点的に取り組む項目のほか、まだ○の少ない項目の社会課題への取り組みにも活かしていきます。

	項　目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
※環境経営事務局																		
※	SDGs ラリーの実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
廃棄物分科会	ごみの分別方法を社内およびテナント様に周知												○					
	ATC ホールで廃棄物の分別推進												○					
	マニフェストの電子化												○					
	産業廃棄物の分別を推進												○					
	ペットボトルキャップを分別・リサイクルし寄付	○																
	プラスチック資源循環促進法への対応												○					
	会議のペーパレス化												○					
	廃蛍光灯管・廃水銀ランプの再資源化推進												○					
	2023年度より廃プラスチックごみの分別強化												○					
CO_2分科会	2022年度再生可能エネルギー比率3%→8%に							○										
	オフィス占有部 LED 化工事実施							○										
	FCU 更新工事第 5 期完了							○										
	「今までのあたりまえをみなおす」取組を推進							○										
	ATC夏の大規模展覧会初「グリーン電力証書」システム導入							○										
	展覧会で日本初「SDGs for MICE 評価制度」を導入							○										
SDGs分科会	第 10 回咲洲こども EXPO2022				○													○
	万博の桜 2025																	○
	ベイエリア MICE 会議																	○
	全国健康保険協会「健康宣言」事業所として認定			○														
	バランスボールの設置			○														
	休養室を設置			○														
	咲洲塾								○									
	サキシマ meets!																	○
	サキシマ meets! おそうじ委員会																	○
	第 1 回サキシマ meets 大運動会																	○
	大阪・咲洲から万博につなげる100プロジェクト									○								○
	Baggageport 大型荷物一時預 株式会社シブタニ									○								
	「技術開発の公開実験の場」中之島ロボットチャレンジ									○								
	IoT・ロボットビジネス実証実験支援									○								
	大阪デザイン振興プラザ				○				○				○					○
	ATC輸入住宅促進センター			○								○		○		○		○
	おおさかATCグリーンエコプラザ				○					○			○	○				○
	ATCエイジレスセンター			○	○							○						○

代表者による全体の評価と見直し・指示

項　目		目標値達成状況	目標値達成状況(原単位)	2022 年度
電力による二酸化炭素削減	ATCホール除く全館	×	×	再エネ率アップ (-5%)、FCU 更新 (-4%) を加味した目標設定とした。電力使用量は基準年度比で 86.7%だったが、気温の影響を大きく受け使用量、原単位とも目標未達。
	ATCホール	○	×	稼働率は完全には回復せず、基準年に比べ密になるイベントを避ける傾向もあり、目標達成。稼働率の上昇に比べ電力使用量の削減が少なく原単位では目標未達。
熱供給による二酸化炭素削減	ATCホール除く全館	×	×	FCU を更新したものの目標は 2021 年度目標から 1%削減とした。結果、基準年度比で 95.2%と削減できたが、電力以上に気温の影響を受け、使用量、原単位とも目標未達。
	ATCホール	○	×	2021年度目標から1%削減を目標値としたが、稼働率は完全には回復せず、基準年に比べ密になるイベントを避ける傾向もあり目標達成。原単位では気温の影響により目標未達。
一般廃棄物の削減（全館）		×	-	分別推進により 2021年度目標から 3.4%削減を目標とした。本年度よりテナントの食品残渣削減の取り組みを行うも、経済活動の活発化により一般廃棄物量も増加し目標未達。
産業廃棄物の削減	ATCホール除く全館	○	-	種類別排出量の把握、テナントが排出した産廃の自主処分依頼、分別推進によるリサイクル推進、有価物化等を実施し排出量を大幅削減。本年度は年度末の処分量が大幅減となり目標達成。
	ATCホール	○	-	前年度より主催者が排出する廃棄物を分別できる仕組みを構築。リサイクルと産廃処分費削減を推進。
リサイクルの推進（リサイクル率）		○	-	様々なリサイクルの取り組みに加え、産廃の処理量が大幅減少したため目標達成。
コピー用紙削減		×	-	電子化、ペーパレス化で基準年比 77%だが、業務活性化によりコピー用紙使用量増で目標未達。
水道水の削減		○	-	最も使用頻度が高い ITM 棟 2 階インフォメーション前トイレを改修し、節水タイプに更新。
グリーン調達・グリーン購入の推進		×	-	イベントが増えたが、イベント関連備品等にはグリーン購入対象商品がないことが多く目標未達。
SDGs の取組みと情報発信		-	-	「SDGs for MICE 評価制度」にテオヤンセン展が取り組みを宣言。ATC HALL の WEBサイトで「サステナビリティ NEWS」ページを作成、公開。
万博を契機とした産業振興		-	-	「大阪・関西万博1000 日前イベント」を開催。社内に万博調整担当を専任で配置。
社会の要請に応じた企業価値向上		-	-	「2030ATC のありたい姿」のとりまとめを進め10月に策定。

当社では、環境経営方針に定める廃棄物排出削減に関して、これまで主としてオフィス部門やホール部門を対象に進めてきましたが、2022年度は新たに商業部門の飲食店から出る食品廃棄物の削減にも取り組みました。まだ食べられるものが廃棄される食品ロスや食べ残しなどの食品廃棄物は、環境悪化や将来的な人口増加による食糧危機に対応するためにも、その削減が求められています。

当社の商業部門では、飲食テナント様に対して、ごみステーションに設置した計量器で食品廃棄物の重量を毎日計測し、報告していただくことをお願いしました。廃棄量は店の大きさや業態によって異なりますが、廃棄量と当該店舗の売上高を対比することで実態が分かってきました。売上高1単位当たりの廃棄量は計測開始から徐々に下がり始めましたが、さらに削減を加速するために、基準値（売上高1万円あたりの廃棄量の目標値）を店ごとに設定して廃棄量を減らす努力をしていただくことにしました。今後、基準値を下回った店舗を成功事例として表彰することで、全館の食品廃棄物を削減してまいります。

食品廃棄物以外の取り組みとしては、風力により生物のように歩行する造形作品を展示する展覧会（テオ・ヤンセン展、2022 年 7～9 月）において、大阪府内の家庭の太陽光発電によりつくられる電力の環境付加価値（具体的には「グリーン電力証書」）を購入し、開催期間中の電力の約 60%のカーボンオフセットを実現しました。この取り組みもあり、本展覧会は、公益財団法人 大阪観光局からSDGs for MICEの評価（第1号）を受けることができました。

今後も、テナント様、取引先等のご協力をいただくことにより、当社が存在することによる環境への負荷を減らしていけるように努力したいと思います。

代表取締役社長　木村 繁

編集後記

環境経営事務局
安田　夏実

2020年に全社的にエコアクション 21 に取組み始め、今回で 3 回目の環境経営レポートの発行となりました。振り返れば 3 年前は、SDGs がまだ今ほど世の中に広まっておらず、社内でも全社的にエコアクション 21 に取組むことに不安を感じる声も多くありましたが、社会を取り巻く環境も変化し、今では社内から「やっていてよかった」という声を聞くようになりました。

今年度、エコアクション 21 の一環で、若手・中堅社員が「2030ATC のありたい姿」を考えるワークをし、既成の枠にとらわれず、新しい時代の価値を創造する「BEYOND」というスローガンが生まれました。まだまだ環境経営の取り組みとしては、始まったばかりですが、テナント様や取引先様、地域のみなさまのご協力を得、持続可能なワクワクする企業へ「BEYOND」していけたらと思っています。

公共サービス事業部
北澤　弘行

環境経営分野においては、脱炭素や脱炭素に関連する取り組みが一層重要視されるとともに、ESG 経営を進めていく上で、例えば DEI（ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン）も意識していくという考え方が少しずつ広まってきました。当社でも、エコアクション21の取組みを活かして一層の環境経営・ESG 経営を進めていくとともに、次の時代の当社のあり方について模索するツールとしても活かしていければと思います。